

地域生活定着支援事業 研修会

～罪を犯した高齢者・障がい者が
地域の中で社会生活を営むために～

第1部 特別講演 14:00～16:00

塀の中の現実に見る日本の社会

～福祉の代替施設と化す我が国の刑務所。
今、福祉に求められるものは何か。～

山本 讓 司 氏

平成23年

3 / 12
(土)

開場：13:30～

第2部 事業報告 16:10～16:45

事業説明と実践事例報告

大分県地域生活定着支援センター

センター長 甲斐 祐 治

日田市中央
公民館

日田市上城内町2-6
電話0973-22-6868

参加費無料
申込み不要

触法高齢者・障がい者の背景にあるもの、また、そこから見える現代日本の福祉の実態などについて、多くの方々がともに考える機会となれば幸いです。
問合せ先：大分県地域生活定着支援センター TEL097-536-5105



山本 讓 司 氏

北海道札幌市生まれ。佐賀県立三養基高校卒。1985年早稲田大学卒業後、菅直人代議士の公設秘書となり、1989年26歳で東京都議会議員に。都議二期を経て、1996年国政の場へ。衆議院議員二期目を迎えた2000年9月秘書給与詐欺事件を起こし東京地検特捜部に逮捕される。2001年6月懲役一年六ヶ月の一審判決を受け服役。受刑中は障害のある受刑者たちの世話係を務める。2003年12月事件の反省と433日間の獄中生活を綴った手記『獄窓記』をポプラ社より出版。同著が「新潮ドキュメント賞」を受賞。TBS系列にてテレビドラマ化される。

出所後は、東京都内の知的障害者入所更生施設に支援スタッフとして通うかたわら、執筆活動や講演活動(福祉団体、人権団体、経済団体、弁護士会、教育機関など)を行なう。また、福祉関係者らとともに、「障害のある受刑者の出所後のシェルター」づくりに取り組む。2006年以降は、PFI刑務所「播磨社会復帰促進センター」や「島根あさひ社会復帰促進センター」の計画立案・運営に携わる。さらには、厚生労働省「罪を犯した障がい者の地域生活支援に関する研究」の研究者、および社団法人・日本社会福祉士会「リーガル・ソーシャルワーク研究委員会」の委員、そして「矯正研修所」および「人事院・公務員研修所」の講師を務める。他に現在、NPO法人「ライフサポートネットワーク」の理事長、更生保護法人「東京実華道場」の評議員、更生保護法人「同歩会」の理事、出所者支援機構「生活再建相談センター」の運営委員、「東京都更生保護就労支援事業者機構」の理事も務める。2010年9月、犯罪防止活動や犯罪者の更生に寄与した人物を賞する「作田明賞」の第一回最優秀賞を受賞。

■ 著書 『塀の中から見た人生』(安部謙二氏との共著・カナリア書房2004.11)、『累犯障害者』(新潮社2006.9)、『少年犯罪厳罰化私はこう考える』(佐藤幹夫氏と共編著・洋泉社2007.6)、文庫版『獄窓記』(新潮社2008.1)、『続 獄窓記』(ポプラ社2008.2)、『精神障害と犯罪』(共著・南雲堂2008.3)、『犯罪からの社会復帰とソーシャル・インクルージョン』(共著・現代人文社2009.1)、文庫版『累犯障害者』(新潮社2009.4)

主催：社会福祉法人恩賜財団済生会 支部 大分県済生会

後援：大分県、大分保護観察所、大分県保護司会連合会、大分県更生保護女性連盟、社会福祉法人 大分県社会福祉協議会、大分県民生委員児童委員協議会、社団法人日田市医師会、社団法人 玖珠郡医師会、日田市、玖珠町、九重町